

2019 ディスクロージャー誌 正誤表

「2019 ディスクロージャー誌」の記載に一部誤りがございましたので、お詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

・訂正内容

自己資本の充実度の状況等について

【P56】

誤	正
<p>(略)</p> <p><b>9. 銀行勘定における金利リスクに関する事項</b>  <b>リスク管理の方針及び手続きの概要</b>                      金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や、将来の収益に対する影響を指しますが、当金庫においては、双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜、対応を講じる態勢としております。                      具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスク（9.9%マイル値）の計測や、金利更改を勘案した収益シミュレーションによる収益への影響度など、ALMシステム等により定期的に計測を行い、ALM委員会で協議検討するとともに、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。                      内部管理上使用した銀行勘定における金利リスクの算定手法の概要</p> <p>・コア預金                      対 象：流動性預金（当座、普通等）                      算定方法：①過去5年間の最低残高 ②過去5年の最大年間流出量を残高から差し引いた残高 ③現残高の50%相当額 以上の①～③のうち最小の額を上限                      満 期：5年以内（平均2.5年）                      金利ショック幅                      9.9%マイル値                      リスク計測の頻度                      月次（前月末基準）</p>	<p>(略)</p> <p><b>9. 銀行勘定における金利リスクに関する事項</b>  <b>(1) リスク管理の方針及び手続きの概要</b>                      金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や、将来の収益に対する影響を指しますが、当金庫においては、双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜、対応を講じる態勢としております。                      具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の銀行勘定の金利リスクの計測や、金利更改を勘案した収益シミュレーションによる収益への影響度などについて定期的に計測を行い、月次でALM委員会において協議検討するとともに、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。</p> <p><b>(2) 金利リスクの算定手法の概要</b>                      ○開示告示に基づく定量的開示の対象となるΔEVE及びΔNII並びに信用金庫がこれらに追加して自ら開示を行う金利リスクに関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 流動性預金に割当てられた金利改定の平均満期                          平均満期は1.226年です。</li> <li>2. 流動性預金に割当てられた最長の金利改定満期                          金利改定満期は5年です。</li> <li>3. 流動性預金への満期の割り当て方法（コア預金モデル等）及びその前提                          流動性預金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しております。</li> </ol>

4. 固定金利貸出の期限前償還や定期預金の期限前解約に関する前提  
固定金利貸出の期限前償還や定期預金の期限前解約については、考慮しておりません。
  5. 複数の通貨の集計方法及びその前提  
通貨別に算出した金利リスクの正値を単純合算しております。なお、金利リスクの合算において、通貨間の相関は考慮しておりません。
  6. スプレッドに関する前提  
割引金利にマイナス金利は用いておらず（ゼロを下限）、スプレッド及びその変動は考慮しておりません。
  7. 内部モデルの使用等、 $\Delta$ EVE と  $\Delta$ NII に重大な影響を及ぼすその他の前提  
該当ありません
  8. 前事業年度末の開示からの変動に関する説明  
開示初年度であるため記載しておりません。
  9. 計測値の解釈や重要性に関するその他の説明  
計測値は金利リスクの許容水準をコントロールするための重要な指標と捉えており、他の計測手法と併せて適正なリスク・コントロールに努めることとしております。  
 $\Delta$ NII に係る開示は 2020 年 3 月期からの適用となります。
- 信用金庫が、自己資本の充実度の評価、ストレステスト、リスク管理、収益管理、経営上の判断その他の目的で、開示告示に基づく定量的開示の対象となる  $\Delta$ EVE 及び  $\Delta$ NII 以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項
- 統合リスク管理において、VaR で計測されるリスク量が配賦資本の範囲内に収まっているかをモニタリングしております。なお、VaR は統計的手法を用いたリスク計算手法であり、過去の市況変化が小さいときにはリスクが過小評価されるなどの問題が指摘されております。当金庫では、バックテストやストレステストを実施することでこのような VaR の問題点の解決に努めております。